

若槻小学校の歴史

北国街道が善光寺から越後に向かって山地へ入る手前の小高い丘の上に、若槻小は立っています。17世紀初めの慶長年間に開かれたという北国街道は、近世には北越諸藩の参勤交代の通路であり、近世に入って天皇巡幸の経路になったという事実が示す、信越往還の重要な道でありました。この沿道の宿駅を中核として形成された文化的風土が、若槻学校の存在する教育基板であったと言うことができます。（若槻小学校 100年史 監修者 中村一雄さんのことば 抜粋）

若槻走学校の歴史：若槻小学校は令和2年度で131年を迎えます。

明治22年に、7か村が合併し、若槻村と命名され、本校の前身である「若槻尋常小学校」が誕生しました。そして、昭和22年に、6,3制の義務教育が実施され、若槻小学校となり現在に至っています。

学区の変遷：若槻地区は、長野市周辺部で最も団地開発が進んだ地で昭和53年には児童数が1461名となりました。昭和44年に湯谷小学校の檀田地区の児童が湯谷小へと移りました。また昭和56年に徳間小学校から稲田、徳間、東徳間が編入された。現在、若槻住民自治協会は、これらの地区も一緒に活動を行っている。それもそのことの名残と思われれます。

校舎の変遷：中校舎が昭和46年に完成、北校舎が昭和47年に一部完成、全面の完成は昭和52年。南校舎も同様に昭和52年に完成しました。南体育館も昭和52年に完成し、校舎改築は全面的に終了したのである。北体育館は昭和40年に建てられ、平成27年に、耐震基準に満たないため51年の幕を下ろし、多目的広場として生まれ変わりました。西門と旧校門付近の整備（130周年記念事業）と北側倉庫（長野市）が令和元年に完成しました。



2代目の勉強の神様、二宮金次郎さんは募金活動により2011年3月9日に再建された。



100年以上の歴史をもつ門柱と桜の古木。現在は通学路も変わり、児童は利用していない。

元長野市教育委員会教育長の奥村秀雄先生の話 ～100周年記念誌より～

「使い古された言葉に、新しい生命を吹き込むのが詩人の使命であると言われます。深く思いやる心の育成を目指す若槻教育は、ずっと以前から受け継がれ、絶えずその時代時代に、新しい息吹を吹き込みながら。初々しく継続されてきた伝統であります。」

新たに迎えた職員を迎え、今この地に生きる若槻の子どもたちのために、新たな気持ちをもって取り組んで参りたいと思います。

若槻小学校の歩み

130周年の歴史の上に立ち

令和元年度に若槻小学校は130周年を迎えました。130年の歴史の上に新たな一年を踏み出します。

- 平成 2年 2月 記念カプセル埋設式
- 元年 11月 100周年記念式典
- 昭和 62年 給食用コンテナ室増設
西側通用門改修
- 61年 6月 正門に扉を取り付ける
- 58年 11月 バイパスの部分使用開始
- 56年 3月 稲田・徳間・東徳間 徳間小に編入
- 52年 7月 大プール竣工
- 1月 南体育館と南校舎・北校舎
増築分と昇降口落成
- 50年 3月 南校舎完成・東校舎取り壊し
- 49年 岩石園・観察池完成
- 47年 1月 北校舎引き渡し
- 46年 1月 中校舎引き渡し
- 45年 3月 檀田地区5, 6年湯谷小へ
- 44年 2月 檀田地区1～4年湯谷小へ
- 43年 12月 蚊里田山裏山にスキー場
- 40年 2月 北体育館完成
- 35年 2月 北部中学校完成 移転
- 29年 4月 市町村合併 長野市立となる。
- 28年 9月 九州や東北地方から視察者多数
- 23年 4月 若槻小 PTA 発足
- 20年 4月 疎開児童が増加
- 19年 1月 みそ汁給食開始
- 16年 4月 上水内郡若槻村立若槻国民学校へ
- 15年 6月 校庭の拡張工事
- 大正 10年 9月 開校 30年を迎える。
- 2年 2月 雪中運動会（ウサギ狩り）実施
- 明治 44年 5月 初めての全校児童による運動会
- 42年 1月 若槻尋常小学校となる
- 41年 6月 体操場落成
- 37年 4月 若槻農業補習学校とし男子は農業
科・女子は裁縫科とする。
- 35年 4月 若槻女子補習校を併設
- 22年 4月 若槻村立 若槻尋常小学校設立



130周年記念事業 令和元年度



小平奈緒さんとの交流会・結城先生講演会



西門・正門の整備 観察池 記念樹



ドローンによる撮影
記念誌 クリアファイルに掲載